

# ほ ど 教育センター通信

## 火床の火の心を紡ぐ

第3号（通算86号）  
令和3年6月29日  
三条市小中一貫教育推進課  
教育センター 発行

三条学園

6/3(木) KUSS 総会・全体研修会  
各部会の様子

### 子どもを災害から守る

小中一貫教育推進課 統括指導主事 桐生 太

6月20日（日）に三条市水害対応総合防災訓練が実施されました。今年度の訓練でも「中学生ボランティア」として、多くの生徒が各避難所の手伝いに参加してくれました。体験を通じて防災意識を育むとともに、次代を担う若い力が地域の防災力を高めていくことを目的とする素晴らしい取組だと思えます。

この時期になると思い出すのは、やはり平成16年の7.13水害です。当時、私が勤務していた中学校は、決壊した川の水にあっという間に囲まれてしまい、200人以上の生徒と教職員が一晩学校に残ることとなりました。午後7時すぎの終学活でその説明をしたとき、不安いっぱい、担任の私を食い入るように見る生徒たちの目が今でも忘れられません。子どものあんな目を見るのは初めてでした。この子たちを絶対に守らなければいけない、そう強く思いました。

天災は忘れた頃にやってくると言われますが、最近はいつどこで起こってもおかしくない状況です。子どもを災害から守るために、普段から危機意識をもち、いざというときは自分の命を守ることを最優先にどういった行動をとるべきなのか、繰り返し防災教育をお願いしたいと思います。

そして、現在は水害や地震などの自然災害だけでなく、新型コロナウイルス感染症も災害と捉えることができるのではないのでしょうか。5月から6月に感染拡大の影響を受け、複数の学校が臨時休校の措置となりましたが、多くの方々の協力で学校が再開できました。防災という観点から考えると、日々の基本的な感染予防対策を徹底することこそが防災教育であり、子どもを守ることに他ならないと思います。今後とも学校・家庭・地域が連携した対応で子どもを災害から守り、共にこの難局を乗り切っていきましょう。



## 【学園の活動紹介】

### 三条嵐南学園



学園のグランドデザインを確認し、まなび部・こころ部・からだ部・ふるさと三条部などの各部会や教科部会に分かれ、今年度の方向性を話し合います。この時期に行うからこそ学年・学級経営に活かされてきます。

令和3年度の三条嵐南学園の教職員数は91人です。(小学校57人、中学校34人) 毎年4月1日に合同顔合わせ会を実施しています。学園の目指す子ども像などを小学校と中学校の職員で共通理解するためです。



### 三条おおじま学園

SDGsの活動の一環として、子どもたちが地域とつながり、自ら地域へ発信して達成感をもつことを目指し、「ふるさとゴミ拾いウォーク」を行っています。小学校区ごとに縦割り班で行いました。須頃小学校と大島中学校は5月7日(金)に、大島小学校は同月12日(水)に行いました。近年校舎回りはごみが減ってきれいになったそうです。

#### 須頃小



「なんでこんなごみがあるの?」とつぶやきながら、小さなごみも見逃さずに拾っていました。近所の方に進んで挨拶していました。

#### 大島中



校舎にSDGsのロゴポスターが貼られています。環境に対する意識の高さが、生徒のごみ拾いの取組に表れていました。

#### 大島小



活動後「一人一人の小さな行動が、町をさらに地球もきれいにする。住んでいる人の心も優しくなる。」などの感想が発表されました。



## 四つ葉学園

四つ葉学園では、学園内の学校で、あいさつ運動が同時開催で行われます。第1回あいさつ運動が、6月8日（火）から14日（月）にかけて行われました。今年度は、中学校の生徒会本部の生徒たちが小学校を訪れてあいさつ運動を行うなど、新たな取組も始まりました。小学生は中学生からシールを受け取り、あいさつをしたら「あいさつの木」にシールを貼っていきます。



また、四つ葉学園の組織には防災教育部があり、10月に予定されている学園小中合同防災訓練の準備が進められています。

小学生と中学生がグループを組み、地域の方々と一緒に街歩きをします。昨年度から始まった企画ですが、好評であったことから今年度も実施します。

「あいさつ」や「防災」をキーワードにして、子どもたちは地域の人々を知り、地域のことを学んでいきます。これらの取組が学校と地域、保護者の結び付きをさらに確かなものにしていくと感じます。

## しただの郷学園



しただの郷学園の運営協議会であいさつ運動やあいさつ標語についての話し合いをしました。

6月14日、中学生が出身小学校へ行ってのあいさつ運動では、地域の方々にも御参加いただきました。毎月第2月曜日の朝に5つの小学校であいさつ運動を実施し、中学生が参加する予定です。「しただの郷学園」のネームのついたビブスも新しく購入し、活用しています。



6月11日の大浦小学校の運営協議会では、6年生が地域の皆さんと一緒に、「大浦の未来」というテーマでグループワークを行いました。「公園がほしい」「公共施設などに意見を聞くポストを置いてほしい」など、たくさんの夢やアイデアが語られました。

## 特別支援教育研修 ～6月に実施した2つの研修について紹介します～

### インクルーシブ教育システム研修（6月8日実施）

講師 上越教育大学 准教授 関原 真紀 様



インクルーシブ教育システムについて、上越教育大学准教授の関原真紀様から2時間の御講義をいただきました。児童生徒の見方を変えて頑張りを見付け、うまくいく方法を考えるリフレーミングや、教育・授業のUD化と具体的方策などについて、上越市の実践を交えながら御紹介いただきました。

#### 【参加者感想（一部抜粋）】

- ・教室環境のUDや人的環境のUDは、通常学級の担任と子どもたちが多く関係することだと思うので、担任と一緒に考えていきたいと思いました。
- ・私たち教師から見て気になる子や困っている子は、本人も困っていたり、助けを求めたりしているんだなと感じた。
- ・気を付けているつもりでも、気になる子へ、つついやってしまいがちな言葉かけなどがあり、改めて一人一人の個性を理解した上で指導していきたいと感じました。
- ・興味深かったのが、上越市の「ひきつける→つなぐ→方向づける→山場をつくる」という取組です。近くにこんな良い実践があるとは。



### 特別な教育課程に基づく授業づくり研修（6月18日実施）

講師 県立月ヶ岡特別支援学校 教頭 川沼 正憲 様



自立活動の概要と教育課程、発達障害に関する理解と対応、愛着障害などについて、幅広く御講義いただきました。西川明子先生の「授業づくり手順モデルシート」や指導の手順と評価などの多くの資料についても御紹介いただきました。

後半は、参加者が日頃の指導で困っていることや疑問に思っていることなどを話し、川沼様から一つずつ丁寧に回答していただきました。自立活動の時間の設定、特性に応じた対応、テストの参加など、たくさん話題が出ました。



まだまだあります！特別支援教育関係研修にどうぞ御参加ください！！

6/30（水）14：00～ 特別な配慮に基づく児童生徒の支援研修  
（新潟大学 教授 有川宏幸 様）

8/27（金）15：00～ 関係機関との連携研修

10/21（木）14：00～ 指導・支援に生かす WISC-IV等分析研修

11/12（金）14：30～ 学習活動に困難のある子どものアセスメントと支援研修  
（上教教育大学 准教授 池田吉史 様）

★7/28（水）三条市特別支援教育研究協議会研修（明蓬館高等学校 南雲明彦様講演）は、動画録画に変更し、8月中に配信予定です。別途、各学校に御案内いたします。